

児童生徒の特性からみた生徒指導の質的改善

－中学生の攻撃性について－

朝長昌三 福井昭史 地頭蘭 健二

小島道生 中村千秋 小原達朗 柳田泰典

Qualitative Improvement of Student Guidance from the Viewpoint of Special Characteristics of Pupils and Students : Aggressiveness of Junior High School Students

Shozo TOMONAGA, Akifumi FUKUI, Kenji JITOZONO, Michio KOJIMA,
Chiaki NAKAMURA, Tatsuro OBARA, and Yasunori YANAGIDA

子どもたちの荒れた状況は、これまでほとんど変化していないようである。むしろ、最近荒れがますます多様化しているし、低年齢化傾向も著しい。すなわち、校内暴力、いじめ、不登校、過激な非行・問題行動、さらには授業妨害、教師に対する悪質ないやがらせ行為といった問題が起こっている。

こうした子どもたちの荒れた状況からみても、これまでの生徒指導の実際的な効果については、問題があると考えられる。

子どもたちの問題行動の背景として、攻撃性の高まりが示唆されている。したがって、攻撃性を適正化する必要性が生じ、その指導の一つが学校における生徒指導であると考えられる。

以上のような視点から、朝長ら（2006, 2007）は長崎市および近郊の中学生に対し攻撃性の調査を行い、以下のような結果を得た。男子生徒では身体的攻撃が最も大で、女子生徒では敵意が最も大であった。また身体的攻撃と言語的攻撃では男子の方が大で、敵意と短気では女子の方が大であった。すなわち、男子は行動面としての攻撃性が強く、それに対して女子は感情面としての怒りや他者に対する否定的な信念や態度が強いという傾向であった。

そこで、本研究では、離島の中学生の攻撃性を身体的攻撃、言語的攻撃、短気および敵意の4特性から検討することを目的とした。

方 法

(1) 回答者

回答者は、長崎県内の離島の5中学校の生徒990名（男子生徒511名、女子生徒479名）であった。1年生の男子は159名で、女子は164名であった。2年生の男子は170名で、女子は166名であった。3年生の男子は182名で、女子は149名であった。

(2) 調査

調査は中学生用攻撃性質問紙 (HAQ-S) を用いて行った。

本質問紙は身体的攻撃, 言語的攻撃, 短気及び敵意の4特性に関する23項目から構成されている。

回答者は各質問項目に対して「まったくあてはまらない」、「あまりあてはまらない」、「よくあてはまる」、「とてもよくあてはまる」の4段階の1つに回答した。

結 果

結果の処理については, 以下のように行った。

各質問項目に対する「まったくあてはまらない」の回答に1点, 「あまりあてはまらない」に2点, 「よくあてはまる」に3点, 「とてもよくあてはまる」に4点を加算し, それらの合計点を各回答者の4特性の代表値とした。

各回答者の各特性の代表値を判定基準に従って「非常に低い」、「やや低い」、「普通」、「やや高い」、「非常に高い」に判定した。

統計処理に関しては, 各回答者の4特性の代表値からt-検定を行い, 以下のような結果を得た。

(1) 男子生徒における攻撃性の比較

1) 全学年の攻撃性 (n = 511)

身体的攻撃: $\bar{x} = 15.875$, $SD = 3.784$

言語的攻撃: $\bar{x} = 13.110$, $SD = 2.666$

短気 : $\bar{x} = 12.705$, $SD = 3.399$

敵意 : $\bar{x} = 13.350$, $SD = 3.870$

① 身体的攻撃と言語的攻撃の比較

$t = 13.504$ ($p < .01$) $df = 1020$

② 身体的攻撃と短気の比較

$t = 14.091$ ($p < .01$) $df = 1020$

③ 身体的攻撃と敵意の比較

$t = 10.544$ ($p < .01$) $df = 1020$

④ 言語的攻撃と短気の比較

$t = 2.120$ ($p < .05$) $df = 1020$

⑤ 言語的攻撃と敵意の比較

$t = 1.158$ 有意差なし

⑥ 短気と敵意の比較

$t = 2.834$ ($p < .01$) $df = 1020$

以上の結果のように, 男子生徒の攻撃性は身体的攻撃が最も大で, 次が敵意, 言語的攻撃, 短気の順であった。また身体的攻撃と他の3特性との間にも統計的に有意な差があった。

2) 1年生の攻撃性 (n = 159)

身体的攻撃: $\bar{x} = 15.522$, $SD = 3.480$ 判定: 普通

言語的攻撃： $\bar{x} = 13.069$, $SD = 2.566$ 判定：やや高い
 短気： $\bar{x} = 12.931$, $SD = 3.632$ 判定：普通
 敵意： $\bar{x} = 13.610$, $SD = 4.011$ 判定：普通

- ① 身体的攻撃と言語的攻撃の比較
 $t = 7.153$ ($p < .01$) $df = 316$
- ② 身体的攻撃と短気の比較
 $t = 6.495$ ($p < .01$) $df = 316$
- ③ 身体的攻撃と敵意の比較
 $t = 4.540$ ($p < .01$) $df = 316$
- ④ 言語的攻撃と短気の比較
 $t = .392$ 有意差なし
- ⑤ 言語的攻撃と敵意の比較
 $t = 1.432$ 有意差なし
- ⑥ 短気と敵意の比較
 $t = 1.583$ 有意差なし

以上の結果のように、1年生男子の攻撃性は身体的攻撃が最も大で、次が敵意、言語的攻撃、短気の順であった。また身体的攻撃と他の3特性との間にも統計的に有意な差があった。

3) 2年生の攻撃性 (n = 170)

身体的攻撃： $\bar{x} = 16.312$, $SD = 3.357$ 判定：普通
 言語的攻撃： $\bar{x} = 12.718$, $SD = 2.661$ 判定：普通
 短気： $\bar{x} = 12.971$, $SD = 3.025$ 判定：普通
 敵意： $\bar{x} = 13.276$, $SD = 3.837$ 判定：普通

- ① 身体的攻撃と言語的攻撃の比較
 $t = 10.940$ ($p < .01$) $df = 338$
- ② 身体的攻撃と短気の比較
 $t = 9.640$ ($p < .01$) $df = 338$
- ③ 身体的攻撃と敵意の比較
 $t = 7.763$ ($p < .01$) $df = 338$
- ④ 言語的攻撃と短気の比較
 $t = .819$ 有意差なし
- ⑤ 言語的攻撃と敵意の比較
 $t = 1.560$ 有意差なし
- ⑥ 短気と敵意の比較
 $t = .816$ 有意差なし

以上の結果のように、2年生男子の攻撃性は身体的攻撃が最も大で、次が敵意、短気、言語的攻撃の順であった。また身体的攻撃と他の3特性との間にも統計的に有意な差があった。しかし短気と言語的攻撃の間には有意な差はなかった。

4) 3年生の攻撃性 (n = 182)

身体的攻撃： $\bar{x} = 15.775$, $SD = 4.353$ 判定：普通

言語的攻撃： $\bar{x} = 13.511$, $SD = 2.714$ 判定：普通

短気： $\bar{x} = 12.258$, $SD = 3.489$ 判定：普通

敵意： $\bar{x} = 13.192$, $SD = 3.784$ 判定：普通

① 身体的攻撃と言語的攻撃の比較

$t = 5.953$ ($p < .01$) $df = 362$

② 身体的攻撃と短気の比較

$t = 8.504$ ($p < .01$) $df = 362$

③ 身体的攻撃と敵意の比較

$t = 6.040$ ($p < .01$) $df = 362$

④ 言語的攻撃と短気の比較

$t = 3.824$ ($p < .01$) $df = 362$

⑤ 言語的攻撃と敵意の比較

$t = .923$ 有意差なし

⑥ 短気と敵意の比較

$t = 2.448$ ($p < .05$) $df = 362$

以上の結果のように、3年生男子の攻撃性は身体的攻撃が最も大で、次が言語的攻撃、敵意、短気の順であった。また身体的攻撃と他の3特性との間にも統計的に有意な差があった。しかし言語的攻撃と敵意との間には有意な差はなかった。

(2) 女子生徒における攻撃性の比較

1) 全学年の攻撃性 (n = 479)

身体的攻撃： $\bar{x} = 13.937$, $SD = 3.679$

言語的攻撃： $\bar{x} = 12.184$, $SD = 2.610$

短気： $\bar{x} = 13.532$, $SD = 3.264$

敵意： $\bar{x} = 14.013$, $SD = 3.704$

① 身体的攻撃と言語的攻撃の比較

$t = 8.509$ ($p < .01$) $df = 956$

② 身体的攻撃と短気の比較

$t = 1.802$ 有意差なし

③ 身体的攻撃と敵意の比較

$t = .315$ 有意差なし

④ 言語的攻撃と短気の比較

$t = 7.063$ ($p < .01$) $df = 956$

⑤ 言語的攻撃と敵意の比較

$t = 8.834$ ($p < .01$) $df = 956$

⑥ 短気と敵意の比較

$t = 2.129$ ($p < .05$) $df = 956$

以上の結果のように、女子生徒の攻撃性は敵意が最も大で、次が身体的攻撃、短気、言

語的攻撃の順であった。また敵意と言語的攻撃との間には有意な差があったが、身体的攻撃と短気との間には統計的に有意な差はなかった。

2) 1年生の攻撃性 (n = 164)

身体的攻撃： $\bar{x} = 13.705$, $SD = 3.827$ 判定：普通

言語的攻撃： $\bar{x} = 11.988$, $SD = 2.850$ 判定：普通

短気： $\bar{x} = 13.427$, $SD = 2.991$ 判定：普通

敵意： $\bar{x} = 13.823$, $SD = 3.872$ 判定：普通

① 身体的攻撃と言語的攻撃の比較

$$t = 4.730 \quad (p < .01) \quad d f = 326$$

② 身体的攻撃と短気の比較

$$t = .852 \quad \text{有意差なし}$$

③ 身体的攻撃と敵意の比較

$$t = .172 \quad \text{有意差なし}$$

④ 言語的攻撃と短気の比較

$$t = 4.461 \quad (p < .01) \quad d f = 326$$

⑤ 言語的攻撃と敵意の比較

$$t = 4.889 \quad (p < .01) \quad d f = 326$$

⑥ 短気と敵意の比較

$$t = 1.037 \quad \text{有意差なし}$$

以上の結果のように、1年生女子の攻撃性は敵意が最も大で、次が身体的攻撃、短気、言語的攻撃の順であった。また敵意と言語的攻撃との間には有意な差があったが、身体的攻撃および短気との間には有意な差はなかった。

3) 2年生の攻撃性 (n = 166)

身体的攻撃： $\bar{x} = 14.663$, $SD = 3.609$ 判定：普通

言語的攻撃： $\bar{x} = 12.211$, $SD = 2.510$ 判定：普通

短気： $\bar{x} = 14.090$, $SD = 3.458$ 判定：やや高い

敵意： $\bar{x} = 14.771$, $SD = 3.555$ 判定：普通

① 身体的攻撃と言語的攻撃の比較

$$t = 7.186 \quad (p < .01) \quad d f = 330$$

② 身体的攻撃と短気の比較

$$t = 1.475 \quad \text{有意差なし}$$

③ 身体的攻撃と敵意の比較

$$t = .276 \quad \text{有意差なし}$$

④ 言語的攻撃と短気の比較

$$t = 5.667 \quad (p < .01) \quad d f = 330$$

⑤ 言語的攻撃と敵意の比較

$$t = 7.580 \quad (p < .01) \quad d f = 330$$

⑥ 短気と敵意の比較

$t = 1.768$ 有意差なし

以上の結果のように、2年生女子の攻撃性は敵意が最も大で、次が身体的攻撃、短気、言語的攻撃の順であった。また敵意と言語的攻撃との間には有意な差はあったが、身体的攻撃および短気との間には有意な差はなかった。

4) 3年生の攻撃性 (n = 149)

身体的攻撃： $\bar{x} = 13.336$, $SD = 3.475$ 判定：普通

言語的攻撃： $\bar{x} = 12.369$, $SD = 2.439$ 判定：普通

短気： $\bar{x} = 13.027$, $SD = 3.255$ 判定：普通

敵意： $\bar{x} = 13.376$, $SD = 3.552$ 判定：普通

① 身体的攻撃と言語的攻撃の比較

$t = 2.779$ ($p < .01$) $df = 296$

② 身体的攻撃と短気の比較

$t = .791$ 有意差なし

③ 身体的攻撃と敵意の比較

$t = .100$ 有意差なし

④ 言語的攻撃と短気の比較

$t = 1.974$ 有意差なし

⑤ 言語的攻撃と敵意の比較

$t = 2.852$ ($p < .01$) $df = 296$

⑥ 短気と敵意の比較

$t = .884$ 有意差なし

以上の結果のように、3年生女子の攻撃性は敵意が最も大で、次が身体的攻撃、短気、言語的攻撃の順であった。また敵意と身体的攻撃および短気との間には統計的に有意な差はなかったが、言語的攻撃との間には有意な差があった。

(3) 性差

1) 身体的攻撃

① 1年生： $t = 4.350$ ($p < .01$) $df = 321$

② 2年生： $t = 4.338$ ($p < .01$) $df = 334$

③ 3年生： $t = 5.544$ ($p < .01$) $df = 329$

以上のように、身体的攻撃に関しては男子の方が女子よりも大で、統計的にも有意であった。

2) 言語的攻撃

① 1年生： $t = 3.580$ ($p < .01$) $df = 321$

② 2年生： $t = 1.795$ 有意差なし

③ 3年生： $t = 3.984$ ($p < .01$) $df = 329$

以上のように、言語的攻撃に関しては男子が女子よりも大で、1年生と3年生において有意な差があったが、2年生においては有意な差はなかった。

3) 短気

- ① 1年生： $t = 1.342$ 有意差なし
- ② 2年生： $t = 3.161$ ($p < .01$) $d f = 334$
- ③ 3年生： $t = 2.055$ ($p < .05$) $d f = 329$

以上のように、短気に関しては女子が男子よりも大で、1年生においては有意な差はなかったが、2年生と3年生においては有意な差があった。

4) 敵意

- ① 1年生： $t = .486$ 有意差なし
- ② 2年生： $t = 3.702$ ($p < .01$) $d f = 334$
- ③ 3年生： $t = .451$ 有意差なし

以上のように、敵意に関しては女子が男子よりも大で、2年生においては有意な差があったが、1年生と3年生においては有意な差はなかった。

考 察

本研究においては、離島の中学生の攻撃性を身体的攻撃、言語的攻撃、短気及び敵意の4特性から検討することを目的とした。

(1) 男子生徒の攻撃性

男子生徒の攻撃性は女子生徒に比べて、より身体的であるとされている。このことは、嶋田ら(1998)や朝長ら(2006, 2007)の得た結果からもいえた。本研究のように、離島の中学生においても、身体的攻撃が最も大で、次が敵意で順に言語的攻撃、短気であった。また身体的攻撃と他の3特性との間に統計的に有意な差があった。

判定基準の「やや強い」と「非常に強い」を「強い攻撃性」とした場合、「強い身体的攻撃」の割合は33%で2006年の調査結果は33%、2007年では34%であった。「強い言語的攻撃」は52%で前回の調査結果は52%と48%であった。「強い短気」は35%で前回の調査結果は40%と37%であった。「強い敵意」は40%で前回の調査結果は41%と38%であった。

攻撃性の4特性の中で、強い攻撃性を1つ有している場合を1要因型としたとき、76%が1要因型で前回の調査結果は80%と78%であった。

また4特性のすべてが強い攻撃性の場合を4要因型としたとき、8%が4要因型で前回は9%と7%であった。

以上のように、離島の男子生徒も長崎市内の男子生徒と同じように身体的攻撃が大で、強い攻撃性の割合も同じような傾向を示しているといえた。

1) 1年生の攻撃性

身体的攻撃が最も大で、次が敵意で、順に言語的攻撃、短気であった。また身体的攻撃と3特性との間に統計的に有意な差があった。

「強い身体的攻撃」の割合は31%で前回の調査結果は33%と27%であった。「強い言語的攻撃」は58%で前回の調査結果は62%と61%であった。「強い短気」は41%で前回の調査結果は50%と42%であった。「強い敵意」は48%で前回の調査結果は50%と

42%であった。これらのことから、長崎市内および近郊の中学生と離島の中学生との間の強い攻撃性の出現率はほとんど同じと考えられた。

1要因型は83%で前回の調査結果は87%と84%であった。4要因型は13%で前回の調査結果は9%と10%であった。

以上のように、離島の1年生男子の攻撃性は長崎市および近郊の中学1年生と同じような傾向を示しているといえる。

2) 2年生の攻撃性

身体的攻撃が最も大で、次が敵意で順に短気、言語的攻撃であった。また身体的攻撃と他の3特性との間に統計的に有意な差があった。このように、2年生になると行動面としての言語的攻撃が弱まり、感情面としての怒りである短気が強くなるという傾向がみられた。

「強い身体的攻撃」の割合は32%で前回の調査結果は42%と47%であった。「強い言語的攻撃」は54%で前回の調査結果は45%と44%であった。「強い短気」は40%で前回の調査結果は43%と44%であった。「強い敵意」は45%で前回の調査結果は49%と49%であった。また1要因型は80%で前回の調査結果は81%と85%であった。4要因型は5%で前回の調査結果は12%と9%であった。

以上のように離島の2年生男子の攻撃性は長崎市および近郊の中学2年生と比べてやや弱いと考えられた。しかしながら、身体的攻撃と短気に関しては、3年間で2年生が最も高く、言語的攻撃が最も低いという傾向があった。

3) 3年生の攻撃性

身体的攻撃が最も大で、次が言語的攻撃で順に敵意、短気であった。また身体的攻撃と他の3特性との間に統計的に有意な差があった。3年生になると行動面としての攻撃である身体的攻撃と言語的攻撃が強まり、他者に対する否定的な信念・態度である敵意や感情面としての怒りである短気が弱まる傾向がみられた。

「強い身体的攻撃」の割合は37%で前回の調査結果は28%と30%であった。「強い言語的攻撃」は46%で前回の調査結果は46%と39%であった。「強い短気」は26%で前回の調査結果は26%と23%であった。「強い敵意」は27%で前回の調査結果は28%と22%であった。1要因型は65%で前回の調査結果は70%と66%であった。4要因型は6%で前回の調査結果は7%と3%であった。以上のように、離島の3年生男子の攻撃性は長崎市および近郊の中学2年生と比べて身体的攻撃がやや強いと考えられた。

(2) 女子生徒の攻撃性

敵意が最も大で、次が身体的攻撃で順に短気、言語的攻撃であった。また敵意と身体的攻撃との間には統計的に有意な差はなかったが、短気および言語的攻撃の間には統計的に有意な差があった。

「強い敵意」は31%で、前回の結果は26%と25%であった。「強い身体的攻撃」は39%で、前回は32%と33%であった。「強い短気」は36%で、前回は35%と34%であった。「強い言語的攻撃」は34%で、前回は37%と38%であった。1要因型は70%で、前回は67%と55%であった。4要因型は7%で、前回は5%と5%であった。

以上のように、離島の女子生徒も長崎市および近郊の女子生徒と同じように敵意が最も大で、言語的攻撃が最も小という傾向があった。また強い攻撃性に関しては、言語的攻撃

の割合が小さい分、敵意と身体的攻撃の割合が大きいと考えられた。

1) 1年生の攻撃性

敵意が最も大で、次が身体的攻撃で順に短気、言語的攻撃であった。また敵意と身体的攻撃および短気との間には統計的に有意な差はなかったが、言語的攻撃との間には有意な差があった。

「強い敵意」は29%で、前回は32%と23%であった。「強い身体的攻撃」は41%で、前回は42%と40%であった。「強い短気」は35%で、前回は38%と36%であった。「強い言語的攻撃」は41%で、前回は45%と50%であった。1要因型は72%で、前回は75%と40%であった。4要因型は7%で、前回は7%と5%であった。

以上のように、離島の1年生女子の攻撃性は、長崎市内および近郊の女子生徒は身体的攻撃が最も大であったのに対し、敵意が最も大であった。また強い言語的攻撃の割合が小さいという傾向がみられた。

2) 2年生の攻撃性

敵意が最も大で、次が身体的攻撃で、順に短気、言語的攻撃であった。また敵意と身体的攻撃および短気との間には統計的に有意な差はなかったが、言語的攻撃との間には有意な差があった。

「強い敵意」は43%で、前回は29%と34%であった。「強い身体的攻撃」は52%で、前回は38%と41%であった。「強い短気」は53%で、前回は44%と44%であった。「強い言語的攻撃」は30%で、前回は30%と32%であった。1要因型は80%で、前回は70%と71%であった。4要因型は12%で、前回は5%と7%であった。

以上のように、離島の2年生女子の攻撃性は長崎市内および近郊の女子生徒と同じような傾向がみられた。しかしながら、強い攻撃性に関しては、敵意、身体的攻撃および短気の割合が大きいと考えられた。

3) 3年生の攻撃性

敵意が最も大で、次が身体的攻撃で、順に短気、言語的攻撃であった。また敵意と身体的攻撃および短気との間には統計的に有意な差はなかったが、言語的攻撃との間には有意な差があった。

「強い敵意」は19%で、前回は18%と19%であった。「強い身体的攻撃」は21%で、前回は18%と21%であった。「強い短気」は19%で、前回は22%と22%であった。「強い言語的攻撃」は30%で、前回は36%と32%であった。1要因型は56%で、前回は57%と55%であった。4要因型は0%で、前回は3%と3%であった。

以上のように、離島の3年生女子の攻撃性は長崎市内および近郊の女子生徒と同じような傾向がみられた。強い攻撃性に関しても、同じような傾向がみられた。また敵意、身体的攻撃および短気の出現が2年生で高まり、3年生では3年間で最も低い数値を示した。

(3) 性 差

離島の中学生における身体的攻撃と言語的攻撃の性差に関しては、男子の方が女子よりも大で、統計的にも有意であった。短気と敵意に関しては女子の方が大で、統計的にも有意であった。これらのことから、離島の男子中学生は行動面としての攻撃が女子よりも強く、女子は感情面としての怒りや他者に対する否定的な信念・態度が男子よりも強い傾向

がみられた。

強い身体的攻撃に関しては、男子が33%で、女子は39%であった。強い言語的攻撃に関しては、男子が52%で、女子は34%であった。強い短気に関しては、男子が35%で、女子は36%であった。強い敵意に関しては、男子が40%で、女子は31%であった。このように、強い攻撃性に関しては、身体的攻撃では女子が、敵意では男子の割合が大きかった。

1要因型は男子が76%で、女子は70%であった。4要因型は男子が8%で、女子は7%であった。

1) 身体的攻撃

1, 2, 3年生ともに男子の方が大で、統計的にも有意であった。一般的に男子生徒の攻撃性は女子に比べてより身体的であるとされており、本研究でもおなじ傾向の結果であった。

強い身体的攻撃に関しては、1年生男子が31%で、女子は41%であった。2年生では男子が32%で、女子は52%であった。3年生では男子が37%で、女子は21%であった。このように、強い攻撃性に関しては、1年生および2年生では女子の割合が大きく、3年生では男子が大きくなるのに対して女子が小さくなるという傾向であった。

2) 言語的攻撃

言語的攻撃に関しては、1年生と3年生男子の方が女子よりも大で、統計的にも有意であった。また2年生においても男子の方が大であったが、統計的に有意な差はなかった。これらの結果は長崎市内および近郊の中学生と同じ傾向であった。

強い言語的攻撃に関しては、1年生男子が58%で、女子は41%であった。2年生では男子が54%で、女子は30%であった。3年生では男子が46%で、女子は30%であった。このように、強い攻撃性に関しては、男子の割合が女子よりも大きく、また男女ともに学年が上がるにつれて小さくなる傾向がみられた。

3) 短気

短気に関しては、2年生と3年生では女子の方が男子よりも大で、統計的にも有意であった。また1年生においても女子の方が大であったが、統計的に有意な差はなかった。これらの結果は長崎市内および近郊の中学生と同じ傾向であった。

強い短気に関しては、1年生男子が41%で、女子は35%であった。2年生では男子が40%で、女子は53%であった。3年生では男子が26%で、女子は19%であった。このように、強い攻撃性に関しては、男子の割合が減少傾向にあるのに対して、女子では2年生が最も大きく、3年生では急激に小さくなるという傾向がみられた。

4) 敵意

敵意に関しては、2年生では女子の方が男子よりも大で、統計的にも有意であった。また1年生と3年生では女子の方が大であったが、統計的に有意な差はなかった。これらの結果は長崎市内および近郊の中学生と同じ傾向であった。

強い敵意に関しては、1年生男子が48%で、女子は29%であった。2年生では男子が45%で、女子は43%であった。3年生では男子が27%で、女子は19%であった。このように、強い攻撃性に関しては、男子は学年が上がるにつれて減少傾向にあるのに対し、

女子では2年生が高く、3年生になると急激に減少するという傾向であった。

以上のように、男子生徒の場合、身体的攻撃が最も大で、他の3特性は学年毎に順位が変わったにもかかわらず、女子生徒の場合には最も大であったのが敵意で、他の3特性の順位は学年が変わっても同じであった。

要 約

本研究は、離島の中学生の攻撃性の傾向を中学生用攻撃性質問紙（HAQ-S）を用いて身体的攻撃、言語的攻撃、短気及び敵意の4特性から検討することを目的として行い、以下のような結果を得た。

(1) 男子生徒における攻撃性

1) 全学年の攻撃性

- ① 身体的攻撃が最も大で、統計的にも有意であった。
- ② 「強い攻撃性」に関しては、言語的攻撃が52%で、最も大であった。
- ③ 1要因型は76%で、4要因型は8%であった。

2) 1年生の攻撃性

- ① 身体的攻撃が最も大で、統計的にも有意であった。
- ② 「強い攻撃性」に関しては、言語的攻撃が58%で、最も大であった。
- ③ 1要因型は83%で、4要因型は13%であった。

3) 2年生の攻撃性

- ① 身体的攻撃が最も大で、統計的にも有意であった。
- ② 「強い攻撃性」に関しては、言語的攻撃が54%で、最も大であった。
- ③ 1要因型は80%で、4要因型は5%であった。

4) 3年生の攻撃性

- ① 身体的攻撃が最も大で、統計的にも有意であった。
- ② 「強い攻撃性」に関しては、言語的攻撃が46%で、最も大であった。
- ③ 1要因型は65%で、4要因型は6%であった。

(2) 女子生徒の攻撃性

1) 全学年の攻撃性

- ① 敵意が最も大であった。
- ② 「強い攻撃性」に関しては、身体的攻撃が39%で、最も大であった。
- ③ 1要因型は70%で、4要因型は7%であった。

2) 1年生の攻撃性

- ① 敵意が最も大であった。
- ② 「強い攻撃性」に関しては、身体的攻撃と言語的攻撃が41%で、最も大であった。
- ③ 1要因型は72%で、4要因型は7%であった。

3) 2年生の攻撃性

- ① 敵意が最も大であった。
- ② 「強い攻撃性」に関しては、短気が53%で、最も大であった。
- ③ 1要因型は80%で、4要因型は12%であった。

4) 3年生の攻撃性

- ① 敵意が最も大であった。
- ② 「強い攻撃性」に関しては、言語的攻撃が30%で、最も大であった。
- ③ 1要因型は56%で、4要因型は0%であった。

(3) 性差

1) 身体的攻撃

- ① 各学年ともに男子の方が女子よりも大で、統計的にも有意であった。
- ② 1年生において、男子の強い攻撃性は31%で、女子は41%であった。
- ③ 2年生において、男子の強い攻撃性は32%で、女子は52%であった。
- ④ 3年生において、男子の強い攻撃性は37%で、女子は21%であった。

2) 言語的攻撃

- ① 1年生と3年生において、男子の方が女子よりも大で、統計的にも有意であった。2年生においても、男子の方が女子よりも大であったが有意な差はなかった。
- ② 1年生において、男子の強い攻撃性は58%で、女子は41%であった。
- ③ 2年生において、男子の強い攻撃性は54%で、女子は30%であった。
- ④ 3年生において、男子の強い攻撃性は46%で、女子は30%であった。

3) 短気

- ① 2年生と3年生において、女子の方が男子よりも大で、統計的にも有意であった。1年生においても、女子の方が男子よりも大であったが有意な差はなかった。
- ② 1年生において、男子の強い攻撃性は41%で、女子は35%であった。
- ③ 2年生において、男子の強い攻撃性は40%で、女子は53%であった。
- ④ 3年生において、男子の強い攻撃性は26%で、女子は19%であった。

4) 敵意

- ① 2年生において、女子の方が男子よりも大で、統計的にも有意であった。1年生と3年生においても、女子の方が男子よりも大であったが有意な差はなかった。
- ② 1年生において、男子の強い攻撃性は48%で、女子は29%であった。
- ③ 2年生において、男子の強い攻撃性は45%で、女子は43%であった。
- ④ 3年生において、男子の強い攻撃性は27%で、女子は19%であった。

参 考 文 献

- 市村操一 (2004) 怒りのコントロール プレイン出版
- 神田信彦・酒井久美代・杉山成 (2005) なぜ攻撃してしまうのか プレイン出版
- 木野和代 (2000) 日本人の怒りの表出方法とその対人影響 心理学研究, 70, No. 6, 494 - 502.
- 大竹恵子・島井哲志・曾我祥子・嶋田洋徳 (1998) 中学生用攻撃性質問紙 (HAQS) の作成 (1) 日本心理学会第62回大会発表論文集, 931.
- 嶋田洋徳・神村栄一・宇津木成介・安藤明人 (1998) 中学生用攻撃性質問紙 (HAQS) の作成 (2) 日本心理学会第62回大会発表論文集, 931.
- 島井哲志・山崎勝之 (2002) 攻撃性の行動科学 健康編 ナカニシヤ出版
- 曾我祥子・嶋田洋徳 (2001) 中学生の攻撃性と性格特性 日本心理学会第65回大会

発表論文集, 533.

朝長昌三・福井昭史・小島道生・中村千秋・小原達朗・柳田泰典 (2006) 中学生の攻撃性に関する研究 長崎大学教育学部教育実践総合センター紀要, 5, 183 - 200.

朝長昌三・福井昭史・小島道生・中村千秋・小原達朗・柳田泰典 (2007) 中学生における攻撃性の傾向に関する研究 長崎大学教育学部教育実践総合センター紀要, 6, 1 - 13.

山崎勝之・島井哲志 (2002) 攻撃性の行動科学 発達・教育編 ナカニシヤ出版

柳田泰典・朝長昌三・中村千秋・小原達朗・福井昭史・小島道生 (2006) 子どもの攻撃性と他者認識 長崎大学教育学部紀要, 70, 1 - 15.